

人生が始まった瞬間

www.i-love-key.net

こんなURLでブログを運営している。

愛だ。

そう、全ては愛。

全ての原動力は愛。

愛に任せて日々ブログを更新してきた。

出会いは確か高校二年の夏だったと思う。

Kanon。

初めてのKey作品だった。

いや、当時はKeyなんてブランド知らなかった。

ただ友人に渡された。

「良いよ」と。

後悔はしていない。

むしろ歓迎だ。

ウエルカム、エロゲ。

ウエルカム、Key。

人生で、これ以上に愛を注げるものがあるのか。

これ以上楽しい事があるのか。

今では、堂々と言える。

俺は鍵っ子であると。

美少女ゲームは、中学生の頃に『ときメモ』をゲームボーイでプレイしたのが最初だ。

当時既に、エロゲと呼ばれるものもいくつかプレイしていた。

授業中に屋上からロケット花火が打ち込まれるような、荒れた中学校だ。

校だ。

アダルトビデオ、エロ本、エロゲの類が男達の間に出回っていた。

学園もの、SFもの、痴漢もの。

ロッカーにタバコが平然と置かれているような環境の中で、先生も

既に諦めていた。

エロゲを借りた俺は、家に帰るとすぐにインストールする。

日常のシナリオは全て飛ばし、エロシーンだけを読む。

エロゲというものに特別な思い入れは無かった。

「俺の秘蔵ビデオ」と言って渡される、なぜかおばさんがセーラー

服で出演している映像と、さしたる違いは無い。

唯一の違いは、テープがデッキに絡む事を恐れずに済む事だろうか。

そういう意味では、二次元というものに対する偏見は無かったが、

エロゲに感動があるなんて事は夢にも思わなかった。

この頃からネットも始めていた。

アナログ回線のテレホーダイが全盛の当時、新しい物好きの父のお

かげで、ISNDという回線で昼夜を問わずネットが出来た。

当時あちこちのサイトに設置されていた『ゆいちゃっと』に入り、

見ず知らずの人と会話していた。

『乱れ雪月花の間』でデイオールチャートを作るのに協力した。

『ホームページ』も見よう見まねで作った。

そんな中学生生活を送っていたが、中堅ながらも進学校と呼ばれる高校に入学できたため、エロゲとはしばらく接点が無くなる。

高校二年。運命の時だ。

「良いよ」と言葉少なに渡されたエロゲにはKanonという名前が付いていた。

数年ぶりにエロゲを借りた。

中学生の頃以上に慎重にいかなくては。

兄と共用の、小さめのノートPCには隠しフォルダが作ってある。そこにKanonをインストールし、スタートメニューからショートカットを削除する。

万全だ。

ぬかりはない……が、忙しい日々を追われ全くプレイ出来ないでいた。

中間テスト。

悪夢のような行事だ。

日頃の勉強をしない俺にとっては、部活動が休みになるテスト週間が勝負だ。

だか、もちろん勉強なんてしない。

家に帰り『ラグナロクオンライン』を起動する。

普段はパーティーを組む時間は無いが、テスト週間は別だ。

思いつき狩りに出かける。

VIT剣士が全盛の、βテストの頃だった。

時は無常だ。

あつと言う間にテスト前日がやってくる。勉強しなくてはならない。

わかってる。

しかし気持ちに焦りは無い。

いつも一夜漬けで乗り切ってきた。

一夜漬け仲間に進捗状況をメールをする。

《E.T.E.：一日目のテスト》

夜が明けるまで残り9時間。

国語に2時間、数学に3時間、保健に1時間かけてもまだ余裕

《e.：一日目のテスト》

俺も今から始める。健闘を祈る

いつも通りの反応に、少し安心する。

こいつは夜の4時、5時にメールを送っても返ってくる、正真正銘の一夜漬け仲間だ。

少し気が緩んだところに悪魔がささやく。

『Kanonをプレイすれば』

テスト前というのは現実逃避が激しくなる。

なぜ今になって思い出してしまったのか。

俺は教科書が乱雑に置かれている机からノートPCをひっぱり出してベットに横になる。

俺の人生が始まる。

「雪、積もってるよ」

ディスプレイ越しに、大寫しになった名雪がこちらを見つめていた。